

放流体験をする金沢小学校の生徒

## 東京湾 金沢漁港で稚魚放流

### 早く大きくなってね!

8月27日(木)、東京湾が「第九回金沢金沢漁港で」横浜市漁業協同組合金沢支所主催

協働の一環として、漁業協同組合金沢支所主催

呼びかけた事業。放流体験をすることで、水産資源の大切さや栽培漁業への幅広い理解を促すことが主旨になっている。港内の船宿や近隣の関係者

全員の協力があつてこそできるイベント。今回で9回目を数える。

午前9時、「おはようございます!」の元気なあいさつで金沢小学校5年生の88人が到着。稚魚栽培の神奈川県栽培漁業協会専務理事・今井利為

たちのあいさつや養殖と栽培漁業の違いについて解説があり、全員がライフジャケットを着用して3隻の遊漁船に分かれて10時30分からは関東学

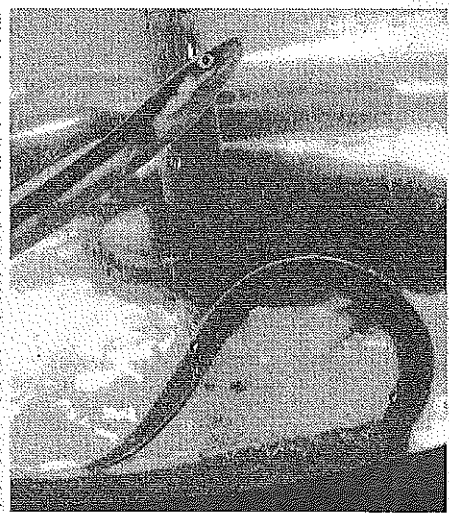


海とのふれあいを楽しむ

乗船する。放流する稚魚はカサゴ2000尾、アナゴ1000尾とアサリ2万粒。航程5分、海底に藻があり育ちやすいポイントに到着。降雨予報だったが海上は穏やかで曇り。船に乗って風を浴びると、とても気持ちがいい。初めて船に乗る小学生がいて船上からの景色に歓声上がる。カサゴは今年1月に生まれた個体で食卓に上がるサイズになるまで2〜3年。「大きくなったのを釣るぞ!」などどこにきやかな話し声のなか、9時30分に魚たちが海に帰っていった。港に戻ってからは質問タイムがあり、職漁や港、魚についての質問が次つぎと上がった。

と、この先釣れない海になつてしまします」と話している。魚が育ち、釣りができる場所を残すには、人間の努力が必要。自然な環境がいつまでもあるように祈りたい。

▼問い合わせ 横浜市漁業協同組合金沢支所 ☎045(781)8929番 神奈川県栽培漁業協会 ☎046(882)6980番  
△本紙・青砥一生▽



アナゴの稚魚

## カサゴやアナゴを海へ

今井さんは「電気代が上がるなどで、同じ予算内では稚魚の育成に限りがあります。都市型的大海である東京湾は、釣りの人のほうが魚よみも多いので、キープ制限や稚魚放流、海に浄化作用をもたらす浅瀬を増やすといった活動をしたい。かたは、人間の努力が必要。自然な環境がいつまでもあるように祈りたい。」

乗船する。放流する稚魚はカサゴ2000尾、アナゴ1000尾とアサリ2万粒。航程5分、海底に藻があり育ちやすいポイントに到着。降雨予報だったが海上は穏やかで曇り。船に乗って風を浴びると、とても気持ちがいい。初めて船に乗る小学生がいて船上からの景色に歓声上がる。カサゴは今年1月に生まれた個体で食卓に上がるサイズになるまで2〜3年。「大きくなったのを釣るぞ!」などどこにきやかな話し声のなか、9時30分に魚たちが海に帰っていった。港に戻ってからは質問タイムがあり、職漁や港、魚についての質問が次つぎと上がった。

策。色黒の船長にメモを取りながら質問して回るなど、短い時間だが小学生らには新鮮な体験になったようだ。